

# 英語科学習指導案

日 時 平成17年10月13日(木) 5校時  
学 級 3年B組(男子18名 女子14名 計32名)  
指導者 T1教諭 多田 義孝 T2教諭 近藤 尚

1 単元名 Unit 4 An American Rakugo-ka (NEW HORIZON English Course3)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は伝統的の日本文化の事例として落語を話題にしており、後半は英語落語(小話)へと展開している。この小話は日米の文化の違い、特によくある言語表現の間違いをテーマにしている。小話の滑稽な内容を理解させると共に、英語と日本語の意味を1対1で対応させることの問題点を意識させたい。

本単元で扱う文法事項は、「疑問詞+不定詞」と「It is + 形容詞 + for - to ~」の文である。

(2) 生徒の実態

新出単語の発音練習や本文の音読に意欲的な生徒が多く、教師の問いかけにも積極的に反応する生徒が少なくない。しかし、単語の意味調べや本文書写の予習によく取り組んでいるものの、復習を中心とした家庭学習への取り組みには課題があり、定着が不安定なのだと思われる。

今年度4月に実施した教研式CRT調査の結果については、【書くこと】の領域が全国水準を大きく下回っている。各単元のまとめテストにおいても、アルファベットの並べ換えや単語の並べ換えの問題では比較的得点率が良いものの、日本語から英語に換える単語や英文の問題では得点率が低い。書くことへの苦手意識を抱いている生徒が少なくないため、反復練習などの言語活動を充実させながら苦手意識を解消させたい。

尚、本時の授業では基本表現の反復練習やインタビュー活動、まとめの問題演習の場面でつまずきが予想される生徒を2名抽出し、支援の手立ての妥当性を考察したい。

(3) 指導観

Unit 3までは受け身の文や現在完了形の文で動詞の過去分詞に重点を置いてきたが、本単元では、「疑問詞+不定詞」と「It is + 形容詞 + for - to ~」のどちらの表現でも「to + 動詞の原形」を扱うことを強く意識させたい。また、生徒にとってはやや理解が難しいと思われる形容詞については、繰り返し口頭練習を行いながら定着を図りたい。

(4) 研究主題との関連

本時の授業は、「思考力の育成を基盤とした授業改善 - 理解の確認 -」の段階である。生徒は、前時に本文の内容理解と音読練習を行い、基本本文の導入段階まで学習している。本時は、基本本文を基にした例文の反復練習やインタビュー活動での応用練習により「理解の確認」に迫る。そして、自己のことに置き換えて英作文する課題の「活用場面の設定」につなげていく。

3 単元目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・ 「疑問詞+不定詞」や「It is + 形容詞 + for - to ~」の文を英語で表現しようとする。
- ・ ジェスチャーや他の方法で相手に言いたいことを伝えようとする。

【表現の能力】

- ・ 「疑問詞+不定詞」の文を用いて英語で表現することができる。
- ・ 「It is + 形容詞 + for - to ~」の文を用いて簡単な対話ができる。
- ・ 場面や心情に応じて音読することができる。

【理解の能力】

- ・ 本文(せんすの使い方や対話、英語落語)の内容を正しく読み取ることができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・ 「疑問詞 + 不定詞」の文の形・意味・用法を理解することができる。
- ・ 「It is + 形容詞 + for - to ~」の文の形・意味・用法を理解することができる。
- ・ 日米の文化や言語表現の違いについて理解することができる。

4 指導計画と評価規準

は家庭学習を示す						
次	時	指導目標	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
学習機 の明 確化	1	Starting Out 本文の内容理解と音読することができる。		本文を正しく音読することができる。(発表) 本文書写	本文(せんすの使い方)の内容を正確に理解することができる。(発言・事後テスト)	
	2	基本本文の形・意味・用法を理解し,進んでインタビュー活動に取り組むことができる。	基本本文を用いて積極的に英語でインタビュー活動をしようとする。(観察)			基本本文の形・意味・用法を理解できる。(ノート・ワーク) 単語と基本本文練習
	3	Dialog 本文の内容理解と音読することができる。		対話場面を意識しながら音読することができる。(発表) 本文書写	本文(対話)の内容を正確に理解することができる。(発言・事後テスト)	
	4 本時	基本本文の形・意味・用法を理解し,進んでインタビュー活動に取り組むことができる。	基本本文を用いて積極的に英語でインタビュー活動をしようとする。(観察)			基本本文の形・意味・用法を理解できる。(ノート・ワーク) 単語と基本本文練習
	5	Reading for Communication 本文の内容を理解し,日米文化の違いを理解できる。		本文書写	英語で語られる小話を読んで,内容を正確に理解することができる。(発言・事後テスト)	日米文化の違いについて理解することができる。(発言) 単語練習
	6	本文の内容を理解し,日米の言語表現の違いを理解することができる。		本文書写	英語で語られる小話を読んで,内容を正確に理解することができる。(発言・事後テスト)	日米の言語表現の違いについて理解することができる。(発言) 単語練習
活用場面 の設定	7	まとめ ジェスチャーや本単元で学習した英語の言い方を用いて進んで表現活動に取り組むことができる。	ジェスチャーや他の方法で相手に言いたいことを積極的に伝えようとする。(観察)	ジェスチャーや他の方法で相手に言いたいことを伝えられる。(発表) 本単元で学習した事項を用いて英語で書くことができる。(学習シート)		

5 本時の指導

(1) 目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

英語を使おうとする態度で言語活動に取り組むことができる。

【言語や文化についての知識・理解】

「It is + 形容詞 + for - to ~」の文の形・意味・用法を理解することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観点	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	より積極的に英語を使い、基本文の反復練習やインタビュー活動などの言語活動に取り組もうとする。	積極的に英語を使って、基本文の反復練習やインタビュー活動などの言語活動に取り組もうとする。	学習に必要な単語などは予め提示したり個別に教えたりして、取り組みやすいようにする。
言語や文化についての知識・理解	基本文の形・意味・用法を正確に理解し、インタビュー活動や問題演習に正しい表現で取り組むことができる。	基本文の形・意味・用法を正しく理解し、インタビュー活動や問題演習に取り組むことができる。	机間巡視しながらつまづいている生徒に個別指導を行う。

(3) 展開

段階時間	学習活動・学習内容	留意事項・評価	配布資料・教具
導入 10	1 あいさつ 2 ウォーミングアップ 3 前時の復習 (1) 本文の音読と内容 (2) 基本文 4 課題の設定 学習課題 : 「- にとって~するのは...です」という表現を使ってインタビューしてみよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1 の質問に意欲的且つ素早く答えさせるようにする。</li> <li>・ 大きな声で音読させる。</li> <li>・ 本文の概要を確認させる。</li> <li>・ 基本表現のポイントを振り返らせる。</li> </ul>	CD 紙板書
展開 30	5 課題解決の見通し (1) パターンプラクティス (2) 例文の暗唱 (3) 書き取り練習と確かめ 6 課題解決に向けた活動 ・インタビュー活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な単語を例に出し、口頭練習させる。</li> <li>・ T 2 は机間巡視し支援する</li> <li>・ 例文を短時間で暗記させ、正確に発表できるようにする。</li> <li>・ T 1, T 2 が半分ずつチェックする。</li> <li>・ 例文を繰り返し書き写させ、最後に見なくても書けるようにする。</li> </ul> <p>基本表現を使って進んで英語でインタビューしているか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1, T 2 でモデル対話を実演する。</li> <li>・ つまづいている生徒には個別指導する。</li> </ul>	紙板書 タイマー 記入用紙 カード
終末 10	7 まとめ (1) まとめの問題演習 (2) 宿題と次時の連絡 8 あいさつ	<p>基本表現のポイントを理解し、多くの問題を解けているか。(机間巡視・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1, T 2 共に机間巡視しながら支援する。</li> <li>・ 3文英作文の指示を出す。</li> </ul>	副教材 学習シート